

秋冬期におけるベンジルアデニン処理がアスパラガスの生育・収量に及ぼす影響

毛利伸治・池内隆夫・小早川弘文

グリーンアスパラガスの秋冬期生産作型を開発するために、秋冬期における BA(6-(N-ベンジルアミノ)プリン)液剤の処理濃度および処理時期が、アスパラガスの生育・収量に及ぼす影響について調査を行い、効果的な BA 液剤の使用法について検討した。

1. BA 液剤を秋期に茎葉に散布することにより、秋冬期における萌芽を促進し、端境期の出荷を図ることが可能であると考えられた。そのための処理方法としては、BA 濃度 50～100ppm の溶液を 1 株当たり 100ml 茎葉散布するのが適当であると考えられた。また、ハウス栽培では 10 月 1 日に処理を行うと秋冬期収量の増加が最も見込めると考えられた。一方、BA 液剤処理による秋冬期の収量増加と階級および秀品率の上昇にともない、春期収量の減少と可販化率および階級の低下が認められた。

2. BA 液剤を使用し、株の草勢が低下した夏秋期に新葉の発生及び展開を促し、草勢の回復を図ることが可能であると考えられた。そのための処理方法としては、発生側枝の 90%程度が展開し、地下部への負担も認められない BA 濃度 10ppm の溶液を 1 株当たり 100ml 茎葉散布するのが適当であると考えられた。

キーワード:アスパラガス,BA,萌芽促進